

高校入試の改善に向けて要請行動をします。皆さんの御意見を！

## 1. 前後期制の一本化やマークシート併用型に賛成？反対？

群馬県の高校入試について、在校生の家庭学習期間が長すぎる、採点や点検で膨大な労力を要することなど、組合では早急に改善するよう県教委に求めてきました。ようやく昨年、県の「入学者選抜制度検討委員会」が2回開かれ、そこでは以下のような入試一本化の意見が大半を占めました。

一本化が適切であるという方向はよいと思う。前期選抜において、総定員内にありながら、多くの生徒が不合格になっている状況を改善する必要があるだろう。また、不合格になった生徒のフォローや、2回目の試験に向けた指導を行う中学校の先生方の負担も軽減できるだろう。

学力検査を1日で行うか、2日で行うかということだが、1日の方がよいという意見もあるだろう。資料によると、35もの都道府県が1日で学力検査をしているので、学力試験を1日で終わりにして、2日目は気持ちを切り替えて面接というのがよいのではないか。

後は県教委がどう決断するかです。早ければ2021年度の中学1年生が受検する入試から一本化される可能性があります。 ※検索「入学者選抜・」で検討委員会の議事を読めますので御覧ください。

関東の状況を紹介しますと、群馬のように前期・後期学力型を実施している都県はありません。栃木は定員の30%以内の特色入試を2月に実施していますが、面接中心です。東京は一部の学校で分割前期後期といった複雑なものがありますが、多数の学校は一回入試であり、2016年度からマークシートを導入（国語は2年後にマーク併用型）しました。神奈川もそれに続き、2013年に入試を一本化し、採点ミス大量処分を受けてマークシート方式に変えています。群馬でも導入を検討するよう組合では提案しています。より多くの皆さんが声を上げることで世論は作られますので、まずはその実物をネットで見ていただき（検索「高校入試マークシート」）、賛否について御意見ください。

## 2. コロナ禍での入試業務

組合には各校から多くの情報が寄せられます。入試についての御意見を一部紹介します。

(1) 教務主任の仕事が多すぎて勤務時間外に長時間の仕事をしている。教務主任以外でも、教頭を含めて多くの職員が入試関係で長期にわたって時間を取られ、在校生への労力を削がれている。

(2) 例年以上に会場設定と担当職員の割り当てが大変で、多くの特別教室（マスク過敏症の受験生対応を含む）を用意するため、職員が足りない。また、職員が不本意でもコロナ担当に充てられてしまう。

(3) 面接が終わる度に椅子やドアを消毒することを求められ、時間の制約が起きてしまい、肝心の質問は少しだけになってしまい、面接本来の目的から外れている。

(4) 前期入試直前に複数の高校で感染者が出たが、当日や採点期間に職員で出たしまったらどうなるのか。

(5) 入選手当の600円の根拠が不明である。実態とかけ離れている。当局に質してほしい。

(6) コロナ対策に加えて雪対策もあり、朝早くから大勢の職員が準備している実態を県に理解してほしい。

他にも各職場ならではの問題点や御意見があると思います。群馬高教組では新年度の交渉に向けて皆さんの御意見、御要望を集約し、世論を作り、当局に改善を求めていきますので御協力ください。

**職場をめぐる様々な問題について、皆さんのご意見・情報をお寄せください。**

高教組は教職員の労働条件改善のために頑張ります。ご支援・ご加入をお願いいたします。

**群馬県高等学校教職員組合**

(TEL:027-231-2784/FAX:027-231-2787)

ホームページはこちら

<http://www.ghtu.org/>



# 2019年度より静岡県の公立中学校で全国初の「フレックスタイム制導入」

教員の働き方改革が進む中、静岡県の公立中学校では2019年度より、教員が勤務時間を二通りの時間帯から選択できる「フレックス制」が導入され、話題となっています。具体的には、通常勤務(8:15~16:45)か、二時間目からの出勤となる遅番(9:30~18:00)かを選択する形態となっており、個々の私的な用事や業務の忙しさ、教員全体の人員配置バランス等が考慮され調整されます。これに伴い、生徒には部活動時間と完全下校時刻の厳守、宿題・定期テストの縮小といった対応が講じられているとのことです。

入学者選抜制度検討委員会、 小林 清 (前橋工科大学教職センター教授)  
太田 千秋 (群馬県立女子大学キャリア支援センター准教授)  
飯野 眞幸 (群馬県都市教育長協議会会長)  
宮崎 一 (群馬県町村教育長会会長)  
柳澤 剛文 (群馬県高等学校PTA連合会会長)  
岩村 隆志 (群馬県PTA連合会会長)  
加藤 聡 (群馬県高等学校長協会会長)  
鈴木 雅浩 (群馬県中学校長会会長)  
小林 澄子 (群馬県小学校長会副会長)  
野口 秀樹 (群馬県私立小・中・高等学校協会会長)

## 員長

事務局の説明について、御質問や御意見があるか。

「前期選抜」「後期選抜」を「特色方式」「一般方式」とすることや、段階選抜方式、定員割合や比重の設定についてはどうか。また、一部の進学校での面接の実施と評価についてどうか。

## 委員

ワーキンググループ会議で定員の割合や検査項目の比重に関する意見をうまくまとめてあり、基本的に例として示された方向でよいと思う。

## 委員

ただ一本化するというだけでなく、これまでの前期選抜・後期選抜の趣旨を生かした内容となっており、中学生や保護者に対しても説明がしやすいと思う。前期選抜で多くの生徒が不合格になり、精神的な負担を負うのは厳しいものがあつた。前期選抜が不合格で気持ちが折れてしまい、後期選抜で同じ高校に挑戦する力を持っていても、妥協してしまう生徒もいた。受検機会を2回から1回にすることには、反対意見もあると思うが、この内容であれば理解してもらえらると思う。

## 委員

優秀な生徒が前期選抜で不合格になることがあり、精神的な負担があつたように思う。特色方式と一般方式の名称は仮称ということだが、特徴を分かりやすく表していて、よいと思う。

## 委員

全体としては資料の例の方向でよいと思うが、学力検査の比重が極端に小さいのは、高校の入学試験としていかなものかと疑問に思う。

委員

定員の比重や検査項目の割合のバランスを、学校の実態等に応じてよく調整していただく必要があると思う。

委員長

選抜日程の日程Aと日程Bについてどうか。

委員

日程Bがよいのではないか。日程Aは卒業式の準備と入試業務の時期が重なってくる。卒業式が終わってから、しっかり準備ができる日程Bの方が負担が少ない。

委員

日程Bがよいと思う。日程Aは試験の日程が早く、3学期の学習時間を十分に確保するのが難しいように思う。

委員

日程A、Bそれぞれにメリット、デメリットがあると思う。早く進路が決まってしまって、残りの中学校生活の目標を失ってしまうという状況を回避できるのは日程Bだろう。また、私立高校の入試時期も考慮する必要があると思う。

委員

日程Aがよいと思う。日程Bは現行の後期選抜日程と差がなく、せっかく入試制度を変えるということであれば、日程Aの方がよいのではないか。また、一本化によって変わってくる判定業務のスケジュールをよく確認したほうがよい。

委員

日程Aがよいと思う。日程Bだと再検査の結果が出るのが、3月末になってしまう。そこから入学の準備などを整えるのは時間的に厳しいし、生徒も保護者も年度末まで不安な気持ちで過ごすことになる。3学期の学習期間をしっかり設けることの重要性も理解できるが、私立高校の入試が1月の中旬に行われていることと比較すれば、2月中旬に検査がある日程Aならば、著しく早いということはないのではないか。

委員

日程Bは現状の後期選抜と同じような日程ということだと思う。日程Aの方が期間的な余裕があり、よいのではないか。

委員長

検査日程は「現行ベース」と「学力検査1日実施」の2例が示されたが、どうか。

委員

第1例がよいと思う。これまでも検査は2日間で、1日目に3教科、2日目に2教科というやり方であったので踏襲するのがよい。検査の実施にはある程度余裕があった方がよいだろう。ただし、3日目を実施するのは賛成できない。

委員

検査の日程は第1例の2日に分ける方がよいが、やはり3日間というのは長いように感じる。

委員

選抜期間が3日間というのは、中学・高校双方の負担が大きいだろう。検査を1.5日とし、2日目の午後に面接というのがよいのではないか。

委員

第2例の方がよいのではないか。入試と通常の学校生活は違うという意見もあると思うが、中学生は日頃から50分×6時間の授業に慣れている。1日で50分の検査を5教科行うことは中学生にとってそんなに大きな負担というわけではないだろう。

委員

3日目を設けない形で、第1例がよい。学力検査を1日で行うことは可能だと思うが、ある程度余裕があった方がよいと感じる。

委員

2日目の12時35分から面接となっているが、全ての高校でこのスケジュールで可能か、受検者数やタイムスケジュールをよく検討した方がよいだろう。

委員長

制度変更の周知から実施までの期間と対象となる学年の例が示されているがどうか。

委員

令和3年度の早い時期に周知することを前提に、令和5年度からの実施がよいのではないか。

委員

入学者選抜の改善について検討しているので、実施は早い方がよいだろう。ただし、令和5年度からの実施には、令和3年度の早い時期に周知する必要がある。公表が令和3年度の後半になるようであれば、令和6年度からの実施とした方がよい。

委員

キャリア教育の観点から、小学校時点で高校入試のことを考えておくのはよいことであると思う。入試制度の改革は非常に大きな影響を与えるものであるので、万が一不備があって、変更が生じるような事態は避けなければならない。拙速に公表して後から変更というのはよくない。スケジュールよりも、しっかりと制度設計が完了できるかどうかの方が大切ではないか。

委員

令和3年の早い時期に周知することを前提に、令和5年度からの実施がよいと思う。ただ、大学の共通テストも非常に大きな混乱をもたらしたので、そのような事態は避けなければならない。

委員

やはり大学の共通テストの迷走があったので、公表する時点でしっかりと確立した制度となっていることが重要だ。大学入試も重要であるが、高校入試と比べると選択肢や受験機会も多いので、ほとんどの生徒にとって人生で初めての大きな試験となる高校入試は、大学入試以上に重要という考え方もある。令和3年度中に公表するなら、おぼろげな状態での公表というのは避けなければならない。

委員

小学生のうちから高校入試を意識するより、中学生になってから一本化することを知った方が、

気持ちとしては受け入れやすいように思う。検討委員会の意見を今年度内にしっかり消化して、制度設計が完了するとよいと思う。

#### 委員長

配付資料では現行制度と一本化のメリットと課題が示されている。改めて一本化について、いかがか。前回の会議では、子どもの視点も踏まえた検討の必要性が提案されているので、子どもの視点も意識した意見を頂きたい。

#### 委員

これまでも意見が出されているように、一本化するということではよいだろう。前期選抜で入学した生徒も、後期選抜で入学した生徒も、入学後の差というのを感じることはない。唯一、部活動実績を生かして前期選抜を受検した生徒が、そのことを理由に部活動でリーダーシップを発揮することがある。日常の学校生活における入試制度による生徒の違いというのを感じることはなく、一本化する上で生徒の意識というのとは問題にならないだろう。

#### 委員

一本化の方向で進めていくべきだと思う。これまでも申し上げたように、総定員内でありながら、前期選抜で多くの生徒が不合格になっている状況を改善する必要があるだろう。ただし、これまで2回行っていた選抜を一本化するに当たっては、一本化するメリットや、一本化しても複数の選抜方式があることなどをしっかりと説明しなければならない。これまで、各高校の前期選抜のA選抜、B選抜、後期選抜と、内容や時期が異なる選抜方式を選択する難しさがあった。一本化して、特色方式と一般方式のような分かりやすい仕組みにすれば、すっきりし、中学生にも分かりやすいし、中学校としても指導がしやすくなるのではないか。

#### 委員

一本化についてはメリットも多く、賛成である。これまでも議論されてきているが、一本化を軌道に乗せるには、中学段階で子どもたちが自分の力を十分に高めることのできる教育を行うこと、高校はそれぞれの学校の特色を明確に打ち出していくことの2つを同時に進めることが必要であると感じる。

#### 委員

現行の前期選抜・後期選抜もいろいろな議論を重ねて作ってきた制度であるが、現在は課題が浮き彫りとなっている。入試制度もその時代に応じて課題を解決しながら変化させることが必要であり、時代の流れの中では一本化が適切であるということだろう。

#### 委員

一本化には賛成だ。中学校の先生も、指導しやすくなるのではないか。

#### 委員

一本化することがはっきりすれば、それに向けて意識を高めていけるだろう。

#### 委員

現行制度の検討をしていた当時と比べると、社会の様々な点に変化してきている。例えば、神奈川県や埼玉県は関東の中で、年明けの比較的早い時期に公立高校の選抜を行っているが、これは私立高校の入試が大きく影響しているのだと思う。現行制度に関しても、制度を始めた頃と比べると、前期選抜と後期選抜の定員の割合などはかなり変化している。

原則論かもしれないが、入試時期については、中学校の3学期の学習期間をしっかりと確保することが必要だろう。また、不合格だった生徒の精神的負担の話があったが、私立入試でも公立

の前期選抜でも、落ちたことによるショックはあるし、また、出願区分をA選抜とするかB選抜とするかなどの悩みもある。現行制度のメリットを引き継ぐ形で一本化し、現行の入試制度の中で悩んだり苦しんだりしている生徒の負担を軽減することが重要だろう。

検査日程については、45分や50分の試験で、それも1点、2点の違いで一生を決めるわけなので、本当は、もっと問題数を多くして、試験時間も長くって中学生の学力をしっかりと評価する必要があると思う。しかし、作問の形式や試験時間を大きく変えることが難しいのも理解できる

## 委員

一本化が適切であるという方向はよいと思う。前期選抜において、総定員内にありながら、多くの生徒が不合格になっている状況を改善する必要があるだろう。また、不合格になった生徒のフォローや、2回目の試験に向けた指導を行う中学校の先生方の負担も軽減できるだろう。

学力検査を1日で行うか、2日で行うかということだが、1日の方がよいという意見もあるだろう。大学入試センター試験は2日間で行われているが、1日目の終了後にその日の試験の自己採点をして、結果が良くない場合に、2日目の試験に影響してしまうというのは、よく聞かれる話である。資料によると、35もの都道府県が1日で学力検査をしているので、学力試験を1日で終わりにして、2日目は気持ちを切り替えて面接というのがよいのではないか。

## 委員長

これまでワーキンググループ会議での議論を受けて、協議いただいたが、一本化が適当であるという意見が多かった。本委員会として受検機会を一本化するという方向でよいか。

る大きな変化です。詳しくは「学校における働き方改革推進本部」で検索してください！

## 2. 言

コロナ禍の中、